



水循環工学講座

教授

楠井隆史
(1953生)

工学博士

(東京大学・昭61)

【経歴】 東京大学工学部都市工学科卒(昭52. 3)、東京大学大学院工学研究科修士課程修了(昭54. 3)、同博士後期課程満期退学(昭57. 3)、富山県立技術短期大学衛生工学科助手(昭57. 4)、同講師(昭58. 4)、同助教(平元. 10～4. 3)、富山県立大学短期大学部助教授(平2. 4～7. 3)、文部省在外研究員：カナダ環境省セントローレンス研究所(平5. 9～6. 2)、富山県立大学短期大学部教授(平7. 4～24. 3)、富山県立大学短期大学部長(平22. 4～24. 3)、富山県立大学工学部教授(平21. 4～)

【担当科目】 水処理工学1・2、環境リスク工学、環境工学実験、環境論I、プレゼン演習
【専門分野】 水処理工学、環境毒性学
【論文・報告】 「活性汚泥法による直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩の浄化機構に関する研究」(学位論文)

「バイオアッセイと海洋環境管理」(環境科学会誌, 2005)

Application of Yeast DNAMicroarray to Evaluate the Environmental Leachate and the Treated Leachate of Waste Disposal Site (Journal of Environmental Chemistry, 2005)

A Mass-balance Analysis to Evaluate the Performance of Modified Oxidation Ditch (OD) System for Sludge Reduction (Journal of Echotechnology Research, 2008)

海洋性発光細菌および動物プランクトンを用いた製鋼スラグ溶出水のバイオアッセイ(水環境学会、2010)

【著書】 「生態影響評価試験ハンドブック」(共著、朝倉書店、2003)

「日本海学の新世紀4-危機と共生」(共著、角川書店、2004)

【所属学会】 土木学会、日本下水道協会、日本水環境学会、廃棄物資源循環学会、日本水処理生物学会、日本環境毒性学会、SETAC

【学会委員等】 日本環境毒性学会幹事(平11. 9～)、同編集長(平成17. 1～19. 12)、日本水環境学会中部支部理事(平17. 4～)、Environmental Toxicology誌編集委員(平18. 1～)

【受賞歴】 環境工学研究フォーラム論文賞(平9. 11)、地球環境講演論文賞(平13. 7)

【学外活動】 国立環境研究所環境リスク評価検討会生態リスク評価分科会委員(平13. 4～)、同水生生物保全に係る化学物質有害性評価作業委員会委員(平16. 4～)、富山県環境審議会水質専門部会委員(平12. 6～)、中央環境審議会専門委員(平23. 8～)など

【現在の研究課題・概要】

1. 微生物、生物個体(水生生物、植物)などを用いた水質(河川、海域、廃水など)、土壌、廃棄物などの安全性(有害性)評価手法の開発と適用法の確立
2. 分子生物学的手法を応用した排水処理の生物相解析や機能評価とモデルなどを用いた新処理法開発とエネルギー資源回収法の開発
3. 化学物質による製品、産業、地域レベルでの環境リスクの評価方法の開発や環境リスクの管理・削減手法の開発

【共同研究キーワード】

バイオアッセイ、下水・排水処理、資源回収、バイオマス、生物多様性